



高橋 亨 教授

高橋 亨教授略歴・業績

1947年7月9日 神奈川県横浜市生まれ

〈履 歴〉

1966年 3月 愛知県立旭丘高等学校卒業
1966年 4月 愛知教育大学教育学部国語科入学
1970年 3月 同上 卒業
1970年 4月 東京大学大学院文学研究科国語国文学専攻修士課程入学
1973年 3月 同上 修了
1973年 4月 東京大学大学院文学研究科国語国文学専攻博士課程進学
1975年 3月 同上 中途退学
1975年 4月 名古屋大学教養部専任講師
1980年 7月 名古屋大学教養部助教授
1990年 1月 名古屋大学教養部教授
1993年 10月 名古屋大学大学院人間情報学研究科教授
1999年 4月 名古屋大学文学部教授
2000年 4月 名古屋大学大学院文学研究科教授（現在にいたる）

学 位

1973年 3月 文学修士「源氏物語における表現構造と主題」
2007年 5月 博士（文学・東京大学）「源氏物語の詩学」

学会活動

中古文学会（会員および委員・編集委員・常任委員を歴任）
日本文学協会（会員および委員を歴任）
物語研究会（会員）
古代文学研究会（会員および会長も歴任）

各種学内委員

名古屋大学大学院人間情報学研究科社会情報学専攻長
 名古屋大学図書館商議員
 名古屋大学文学研究科留学生委員

学外委員等の委嘱

大学入試センター国語問題作成委員
 科学研究費一段・二段審査委員
 国文学研究資料館文献調査員・共同研究員
 国際日本文化研究センター共同研究員

海外出張講義および講演

インディアナ大学 (USA) 比較文学科・東アジア学科客員教授 (1991年8月～12月)
 カレル大学 (チェコ共和国) 哲学部客員教授 (2004年10月～2005年1月)
 韓国国立木浦大学校講師 (2001年4月)
 1995年10月 コロンビア大学東アジア学科「物語の話型と心的遠近法」
 1995年11月 MAILS (アメリカ中西部日本文学会) 秋期大会 ウィスコンシン大学
 「物語の時空と心的遠近法」
 1995年11月 インディアナ大学ブルーミントン校
 「Narrative Structure of Monogatari and Psycho-perspective」
 1995年11月 プリンストン大学東アジア学科「物語の時空と心的遠近法」
 1995年12月 シカゴ大学東アジア学科
 「Narrative Paradigms and Psycho-perspective of Monogatari Fiction」
 2001年9月 吉林大学「源氏物語と日本文化」
 2001年9月 吉林大学「源氏物語の心的遠近法」
 2006年6月 韓国外国語大学校「紫式部と源氏物語の方法」
 2006年6月 韓国国立木浦大学校「紫式部と源氏物語の世界」

受賞歴

財団法人日本古典文学会賞 (1978年)

〈業 績〉

単 著

- | | | |
|--------------------------|----------|-------|
| 1. 源氏物語の対位法 | 東京大学出版会 | 1982年 |
| 2. 物語文芸の表現史 | 名古屋大学出版会 | 1987年 |
| 3. 色ごのみの文学と王権—源氏物語の世界へ— | 新典社 | 1990年 |
| 4. 物語と絵の遠近法 | ぺりかん社 | 1991年 |
| 5. 源氏物語の詩学—かな物語の生成と心的遠近法 | 名古屋大学出版会 | 2007年 |

共 著

- | | | |
|----------------------|-----|-------|
| 1. 物語の千年—『源氏物語』と日本文化 | 森話社 | 1999年 |
|----------------------|-----|-------|

編 著

- | | | |
|---|------------|-------|
| 1. 日本文学研究資料叢書『源氏物語』Ⅳ | 有精堂 | 1982年 |
| 2. 竹取物語 大和物語 | ほるぷ出版 | 1986年 |
| 3. 源氏物語 帚木 | 桜楓社 | 1987年 |
| 4. 源氏物語と帝 | 森話社 | 2004年 |
| 5. 日本語テキストの歴史的軌跡（「テキスト布置解釈学的研究と教育」
第8回国際研究集会報告書） | 名古屋大学文学研究科 | 2010年 |
| 6. 王朝文学と物語絵（平安文学と隣接諸学 10） | 竹林舎 | 2010年 |

共編著

- | | | |
|--------------------|-------|-------|
| 1. 物語の方法—語りの意味論 | 世界思想社 | 1992年 |
| 2. 新講 源氏物語を学ぶ人のために | 世界思想社 | 1995年 |
| 3. 新編竹取物語 | おうふう | 2003年 |

論 文

- | | | |
|-----------------------------------|-----------------|-------|
| 1. 源氏物語における出家と罪と宿世—藤壺物語と王権の喪失・序説— | 『むらさき』9 | 1971年 |
| 2. 可能態の物語の構造—六条院物語の反世界— | 『日本文学』22-10 | 1973年 |
| 3. 源氏物語の〈ことば〉と〈思想〉—女三宮=柏木物語— | 『国語と国文学』50-12 | 1973年 |
| 4. 男性作品から女の文学へ—物語文学の深化— | 『国文学・解釈と鑑賞』39-1 | 1974年 |
| 5. 物語の発端の表現構造—宇津保から源氏への物語史的過程— | 『日本文学』23-6 | 1974年 |
| 6. 宇治物語時空論 | 『国語と国文学』51-12 | 1974年 |
| 7. 存在感覚の思想—〈浮舟〉について— | 『日本文学』24-11 | 1975年 |
| 8. 竹取物語論 | 『国語と国文学』53-3 | 1976年 |
| 9. 竹取物語論のための序説 | 『古代文化』208 | 1976年 |
| 10. 五月まつ花橘の変奏譚—歌ことばと物語的想像力— | 『古代文学研究』1 | 1976年 |

11. 堤中納言物語の世界—短編性について
『堤中納言物語・とりかへばや物語』角川書店 1976年
12. モノガタリ言語序説—物語史覚え書き— 『名古屋大学教養部紀要』A-21 1977年
13. 物語の〈語り〉と〈書く〉こととは何か—源氏物語の作者の詞—
『国文学・解釈と教材の研究』22-11 1977年
14. 源氏物語の内なる物語史 『国語と国文学』54-11 1977年
15. 源氏物語的時空—その負極— 『日本文学』26-11 1977年
16. 物語論の発生としての源氏物語—物語史覚え書き(二)—
『名古屋大学教養部紀要』A-22 1978年
17. 源氏物語の方法・文体〈語り〉の表現構造—いわゆる草子地について
『源氏物語』下、至文堂 1978年
18. 紫式部、自己省察の文体 『国文学・解釈と教材の研究』23-9 1978年
19. 祭り幻想と宇津保物語 『古代文学研究』3 1978年
20. 喪失と懐古—歌物語のアイロニー— 『国文学・解釈と教材の研究』24-1 1979年
21. 宇津保物語—はじまりの世界の想像力
論集中古文学2『初期物語文学の意識』笠間書院 1979年
22. 狂言綺語の文学—物語精神の基底— 『日本文学』28-7 1979年
23. 柏木はなぜ自ら死を求めねばならなかったのか
『国文学・解釈と教材の研究』25-6 1980年
24. 藤壺の登場・事件 『国文学・解釈と鑑賞』45-5 1980年
25. 雨夜の品定め 『国文学・解釈と鑑賞』45-5 1980年
26. 物語の語り手(1)—帚木三帖の序跋 『講座源氏物語の世界』1 有斐閣 1980年
27. 光源氏体制の建設 『講座源氏物語の世界』4 有斐閣 1980年
28. 闇と光の変相 『ユリイカ』12-14 1980年
29. 蜻蛉日記の修辞—引き歌論を中心に 一冊の講座『蜻蛉日記』有精堂 1981年
30. 逆曼荼羅の流出—源氏物語の〈語り〉— 『日本文学』30-5 1981年
31. 物語の構造分析、その可能性と限界 『国文学・解釈と鑑賞』46-5 1981年
32. 引用としての准拠—源氏物語における文字と歴史
『平安時代の歴史と文学』吉川弘文館 1981年
33. 朱雀院の人間像 『講座源氏物語の世界』6、有斐閣 1981年
34. 〈語り〉と登場人物 論集中古文学5『源氏物語の人物と構造』笠間書院 1982年
35. 物語の語り手(2)—古御達の語り 『講座源氏物語の世界』7、有斐閣 1982年
36. 〈落窪〉の意味をめぐる—物語テキストの表層と深層— 『日本文学』31-6 1982年
37. 物語と説話 『伝承文学研究』27 1982年
38. 夕顔の巻の表現—テキスト、語り、構造— 『文学』50-11 1982年
39. 歌物語としての伊勢物語—テキストの生成と変換
一冊の講座『伊勢物語』有精堂 1983年
40. 〈物語〉としての平家物語 『日本文学』32-4 1983年
41. 生成の学としての文学理論 『物語研究』4 1983年
42. 大君の結婚拒否 『講座源氏物語の世界』8、有斐閣 1983年

43. 唐めいたる須磨 『むらさき』 20 1983年
44. 落窪物語 『体系物語文学史』 3、有精堂 1983年
45. 「宇津保物語」の絵画的世界 『風俗』（日本風俗史学会）22-3 1983年
46. 絵と物語の想像力—宇津保物語の型と表現— 『中古文学』 32 1983年
47. 「詩文」（〈特集〉源氏物語をどう読むか—現在から）
『国文学・解釈と教材の研究』 28-16 1983年
48. 言の葉をかざれる玉の枝—物語言語の生成— 『国語と国文学』 61-5 1984年
49. 物語発生 『王朝文学史』 秋山虔編、東京大学出版会 1984年
50. 王朝文学と憑霊の系譜—ことばのシャーマニズム—
『国文学・解釈と教材の研究』 29-10 1984年
51. 歌物語はなぜ—時期の所産でしかなかったのか
『国文学・解釈と教材の研究』 29-14 1984年
52. 中有の風—引用論の視点から 『国文学・解釈と教材の研究』 30-5 1985年
53. 源氏物語から見た竹取物語—長恨歌を媒介として—
『国文学・解釈と教材の研究』 30-8 1985年
54. 源氏物語の心的遠近法 『物語研究』 1、新時代社 1986年
55. 成立論の可能性 『国文学・解釈と鑑賞』 別冊「源氏物語をどう読むか」 1986年
56. 前期物語の話型 『日本文学』 35-5 1986年
57. 色ごのみの文学
古代文学論叢 10『源氏物語とその周辺の文学 研究と資料』 武蔵野書院 1986年
58. 源氏物語以後 『日本文芸史』 2 古代II、河出書房新社 1986年
59. 竹取物語—境界性と異化のテキスト 『国文学・解釈と教材の研究』 31-13 1986年
60. 物語文学の時間 『体系物語文学史』 2、有精堂 1987年
61. 長編物語の構成力—宇津保物語「初秋」の位相 『日本文学講座』 4、大修館 1987年
62. 源氏物語テキストの〈文法〉序説 『源氏物語の探求』 12、風間書房 1987年
63. 『無名草子』の月—月と日本文学 『高校通信東書国語』 275 1987年
64. ファンタジーとしてのかぐや姫 『季刊 iichiko』 5 1987年
65. 死と再生—須磨 『国文学・解釈と教材の研究』 32-13 1987年
66. 中心と周縁の文法—源氏物語の心的遠近法 『文学』 56-4 1988年
67. 竹取物語かぐや姫論—変化のもの 別冊国文学 34『竹取物語伊勢物語必携』 1988年
68. 『とりかへばや』物語の倒錯 『国文学・解釈と鑑賞』 53-9 1988年
69. 叙事の時間 『国文学・解釈と教材の研究』 34-1 1989年
70. 源氏物語の光と王権 『日本文学』 38-2 1989年
71. 「竹取物語」—月天女の流離と世の結びめ（幻想文学の劇場）—
『国文学・解釈と教材の研究』 34-15 1989年
72. 省筆の文法・余情の美学—源氏物語の心的遠近法
『終わりの美学』 国文学研究資料館共同研究報告書、明治書院 1990年
73. レトリックとしての王権—源氏物語の帝を中心に 『日本文学』 39-3 1990年
74. 「よ」の時空と生成力—竹取物語を中心に— 『日本上代文学論集』 塙書房 1990年

75. 『いかに木を殺すか』—「大いなる女たち」の物語にむけて
『国文学・解釈と教材の研究』35-8 1990年
76. 喩としての地名—明石を中心に— 『源氏物語地名と方法』桜楓社 1990年
77. 物語文学のまなざしと空間 源氏物語の〈かいま見〉 『日本の美学』16 1991年
78. 〈もどき〉の生成力—日本文化のポリフォニー—
『日本社会の構造と異文化受容システム』(名古屋大学教養部) 1991年
79. 初期物語の遠近法 『日本文学史を読む』2、有精堂 1991年
80. 語りの場の表現史と歴史物語 『王朝歴史物語の世界』吉川弘文館 1991年
81. 源氏物語の〈ゆかり〉と〈形代〉—絵と人形と物語の文法—
『日本文学の特質』明治書院 1991年
82. 光源氏 源氏物語講座2『物語を織りなす人々』勉誠社 1991年
83. 継子譚の構造—実例『落窪物語』 『国文学・解釈と教材の研究』36-10 1991年
84. 貴種流離譚の構造 『国文学・解釈と鑑賞』56-10 1991年
85. 平中物語論—一言の葉のうつろい 『平安時代の作家と作品』武蔵野書院 1992年
86. 物語学にむけて—構造と意味の主題的な変換
『物語の方法—語りの意味論』世界思想社 1992年
87. 源氏物語の〈琴〉の音—知の歴史語りの遠近法 『季刊 iichiko』23 1992年
88. 光源氏論—境界性のゆらぎ 『源氏物語作中人物論集』勉誠社 1993年
89. 日記と源氏物語 物語の内なる表現史 『古記録と日記』下、思文閣出版 1993年
90. 王朝文学の誕生 『源氏物語を読む』吉川弘文館 1993年
91. 作り物語と説話 『説話の講座』6、勉誠社 1993年
92. 竹取物語と漢詩文—月をめぐって 『国文学・解釈と教材の研究』38-4 1993年
93. 『源氏物語』—物語文学を超えて 『時代別：日本文学史事典：中古編』有精堂 1995年
94. 源氏物語と絵画 『国文学・解釈と教材の研究』40-3 1995年
95. 源氏物語の方法—謎かけの文芸
『新講 源氏物語を学ぶ人のために』世界思想社 1995年
96. 物語の型と虚構—源氏物語を中心に— 『講座日本の伝承文学』3、三弥井書店 1995年
97. 文芸と絵巻物—表現法の共通性と差異 『絵巻物の鑑賞基礎知識』至文堂 1995年
98. 〈もどき〉としての枕草子 『国文学・解釈と教材の研究』41-1 1996年
99. 歌の技法と物語の技法 『岩波講座 日本文学史』2、岩波書店 1996年
100. 枕草子—つれづれなぐさむ草子と日記
『王朝女流日記を学ぶ人のために』世界思想社 1996年
101. Space/Time of Monogatari and Psycho-perspective
Proceedings of the Midwest Association for Japanese Literary Studies, Vol.2 1996年
102. 源氏物語、書かれた語り 別冊国文学 50『新・源氏物語必携』 1997年
103. 源氏物語の悲恋—恋する男の夢の浮橋 『悲恋の古典文学』世界思想社 1997年
104. うつほ物語の琴の追跡、音楽の物語 『国文学・解釈と教材の研究』43-2 1998年
105. 『源氏物語』の光と陰
『アジア文化研究所年報』中京女子大学アジア文化研究所 1998年
106. 『源氏物語』の内なる絵画・絵画論 『国文学・解釈と鑑賞』63-8 1998年

107. 明石入道の物語の心的遠近法 『国語と国文学』75-11 1998年
108. 源氏物語の待遇表現—その心的遠近法— 『源氏物語研究集成』3、風間書房 1998年
109. 横笛の時空—源氏物語の音楽とその主題的表現 『源氏研究』4 1999年
110. 物語の老人（英訳：The Elderly in Mid-Heian Period Japanese Tales）
『国際比較シンポジウム「老賢者メルラン、古今東西の老神」報告集】
名古屋大学文学部 1999年
111. 歳時と類聚—平安朝かな文芸の詩学にむけて 『国語と国文学』76-10 1999年
112. 語源譚の物語と歌—掛詞の声と文字—
『声と文字 上代文学へのアプローチ』塙書房 1999年
113. 源氏物語の「もののけ」と心的遠近法
『国際日本文化研究センター創立10周年記念 国際研究集会報告集』 1999年
114. かな文字生成論—詩的言語の音と文字
『音声と書くこと』叢書想像する平安文学8、勉誠出版 2001年
115. 王朝〈女〉文化と『無名草子』 『古代文学研究』（第二次）10 2001年
116. 『源氏物語』の歳時意識—物語の〈詩学〉にむけて
『源氏物語研究集成』10、風間書房 2002年
117. 物語作者の日記としての紫式部日記 『紫式部の方法』笠間書院 2002年
118. 平安朝物語と日本語の生成 『ユリイカ』35-7、臨時増刊号 2003年
119. 「歌語り」と物語ジャンルの生成 『SITES 統合テキスト科学研究』1-2 2003年
120. 歌合、詩合、和漢朗詠集—和歌の生成と物語 『文字』2、ミネルヴァ書房 2004年
121. 言の葉としてのテキスト 『SITES 第3回国際研究集会報告書』 2004年
122. 『無名草子』と歴史物語 『国文論叢』34、神戸大学文学部国語国文学会 2004年
123. 物語の「みかど」と「天皇」 『源氏物語と帝』森話社 2004年
124. 物語テキストにおける作者 『SITES 統合テキスト科学研究』2-2 2004年
125. 翁と姫の知と笑い 『アジア遊学』68 2004年
126. 愛執の罪—浮舟の還俗と仏教 『源氏物語 宇治十帖の企て』 2005年
127. 『花鳥風月』における伊勢・源氏 『描かれた源氏物語』翰林書房 2006年
128. 〈紫式部〉の身と心の思想・序説
『源氏物語と文学思想 研究と資料』古代文学論叢17、武蔵野書院 2008年
129. 「汚穢」の言葉 『王朝物語のしぐさとことば』清文堂 2008年
130. 間（インター）テキストとしての古注釈と『源氏物語』研究
『平安文学の古注釈と受容』1、武蔵野書院 2008年
131. 「主題」論の過去と現在 『テーマで読む源氏物語』1、勉誠出版 2008年
132. 宇治の大君・中の君をめぐる端役たち—裏の主人公による領導とその限界
『端役で光る源氏物語』世界思想社 2009年
133. フランクフルト本『源氏狭衣歌合絵巻』について 『国語と国文学』86-5 2009年
134. 源氏物語の人物論・表現論を拓く 『源氏物語の歌と人物』翰林書房 2009年
135. 〈紫式部〉による『伊勢物語』の引用と変換
『伊勢物語 創造と変容』和泉書院 2009年
136. 『源氏物語』六条院の女楽をめぐる 『アジア遊学』126 2009年

137. 『狭衣物語』の絵画
『狭衣物語全注釈』Ⅳ巻二(下)、狭衣物語研究会編、おうふう 2009年
138. 『源氏物語』と後宮文化論のための素描 『源氏物語の展望』6、三弥井書店 2009年
139. 近世初期「源氏絵」と詞書筆者について 『中古文学』84 2009年
140. 『竹取物語』の〈終わり〉と物語史のはじまり 『国文学・解釈と鑑賞』75-3 2010年
141. 近世源氏絵の享受と文化創造 『王朝文学と物語絵』竹林舎 2010年
142. 『源氏物語』解釈と後宮文化の異文化コンテクスト
『Global COE 第8回国際研究集会報告書』名古屋大学大学院文学研究科 2010年
143. 『狭衣物語』現存絵画資料場面一覧
『狭衣物語全注釈』Ⅴ巻三(上)、狭衣物語研究会編、おうふう 2010年
144. プラハ本「狭衣物語絵」の物語場面 『狭衣物語 空間／移動』翰林書房 2011年
145. 平安朝文学の始発と終焉 『国文学・解釈と鑑賞』76-8 2011年

翻 訳

1. アマンダ・スティンチウム「浮舟」—話声の研究(上)
アマンダ・スティンチウム・高橋亨共訳 『日本文学』29-9 1980年
2. アマンダ・スティンチウム「浮舟」—話声の研究(下)
アマンダ・スティンチウム・高橋亨共訳 『日本文学』29-10 1980年

書 評

1. 伊井春樹編『内閣文庫本細流抄』 『国語と国文学』52-11 1975年
2. 藤井貞和著『深層の古代—文学史的批評』
『国文学・解釈と教材の研究』23-11 1978年
3. 石川徹著『平安時代物語文学論』を読む 『日本文学』28-10 1979年
4. 古田拡・高杉一郎・武田孝・松永巖共著『源氏物語の英訳の研究』を読んで
『日本文学』29-12 1980年
5. 関根賢司著『物語文学論—源氏物語前後』 『国文学・解釈と鑑賞』46-3 1981年
6. 島内景二著『御伽草子の精神史』 『国文学・解釈と教材の研究』33-10 1988年
7. 山根有三先生古稀記念会編『日本絵画史の研究』 『国文学・解釈と鑑賞』55-2 1990年
8. 上原作和著『光源氏物語の思想史的変貌—〈琴〉のゆくへ』 『日本文学』44-9 1995年
9. 三田村雅子著『枕草子—表現の論理』 『国文学・解釈と鑑賞』61-1 1996年
10. 関根英二編『うたの響き・ものがたりの欲望—アメリカから読む日本文学』
『日本文学』45-11 1996年
11. 室城秀之著『うつほ物語の表現と論理』 『国語と国文学』77-4 2000年
12. ツバタナ・クリステワ著『涙の詩学—王朝文化の詩的言語』 『日本の美学』33 2001年
13. 石川九楊『日本書史』 産経新聞 2001年
14. 神田龍身著『源氏物語—性の迷宮へ』 『国文学・解釈と教材の研究』47-2 2002年
15. 藤井貞和著『平安物語叙述論—一時制論と人称論を中心に』
『言語・情報・テキスト』(東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要) 9-1 2002年
16. 安田徳子・平野美樹共著『四条宮下野集全釈』 『名古屋大学国語国文学』91 2002年

17. 日向一雅著『源氏物語の世界』『源氏物語—その生活と文化』
『古代文学研究』（第二次）13 2004年
18. 河添房江著『源氏物語時空論』 『日本文学』55-9 2006年

その他

1. 夢のような現実感覚 『日本文学』21-10 1972年
2. 若菜上・若菜下 『国文学・解釈と教材の研究』19-10 1974年
3. 「紫式部日記」の現在 『国文学・解釈と鑑賞』40-5 1975年
4. 枕草子鑑賞（第一八二段～第一九二段） 『枕草子とその鑑賞』2 有精堂 1975年
5. 歌ことばと物語の想像力 『国文学・解釈と教材の研究』22-1 1977年
6. 文学的〈古代〉の可能性 『古代文学研究』5 1980年
7. 〈座談会〉なぜ物語文学を研究するか 『国文学・解釈と鑑賞』45-9 1980年
8. 物語の本文批評について 『日本古典文学会々報』85 1981年
9. 〈座談会〉物語・説話と歴史（上） 『伝承文学研究』27 1982年
10. 物語のまなざし—源氏物語と平家物語 『UP』11-8 1982年
11. 紫式部源氏物語の〈六条御息所〉—高貴さと物の怪と
『国文学・解釈と教材の研究』27-13 1982年
12. 紫式部源氏物語の〈女三の宮〉—幼女性の罪
『国文学・解釈と教材の研究』27-13 1982年
13. モノ化した物語〈作者〉 『国文学・解釈と教材の研究』27-14 1982年
14. 〈座談会〉物語・説話と歴史（下） 『伝承文学研究』28 1983年
15. 〈制度〉論的状況への発言 『日本文学』32-2 1983年
16. 「座談会 制度と表現」を読んで 『日本文学』32-12 1983年
17. いろいろのみ 『国文学・解釈と教材の研究』30-10 1985年
18. 日本文学（古典）研究 '85 『文芸年鑑』 1986年
19. 源氏物語 『卒論・レポートを書く』有精堂 1986年
20. 紫式部と紫の上 『UP』16-1 1987年
21. 〈対談〉枕草子、見えない回路 『国文学・解釈と教材の研究』33-5 1988年
22. 異化と対立のあやとり遊び—『日本文学講座1 方法と視点』について
『日本文学』37-4 1988年
23. 日本学をめぐる 『日本文学』37-5 1988年
24. 源氏物語（古典文学論文・レポート制作マニュアル）
『国文学・解釈と教材の研究』33-9 1988年
25. 視線・まなざし・まみ 『物語研究』2 1988年
26. 源氏物語の本（古典文学読書案内） 『国文学・解釈と教材の研究』33-11 1988年
27. 生成するテキストにむけて—小森陽一『構造としての語り』『文体としての物語』を読む
『国語国文研究』（北大）83 1989年
28. 地名散策第十一回 こもりくの初瀬・長谷寺
『新日本古典文学大系』24 付録・月報 11 1989年
29. 物語会議—語りと物語事典 『国文学・解釈と教材の研究』35-1 1990年

30. フィールド・シラネらの物語文学研究 『国文学・解釈と教材の研究』 35-1 1990年
31. 源氏物語作中人物論事典 柏木 『国文学・解釈と教材の研究』 36-5 1991年
32. 〈対談〉物語の時間・絵画の時間 『日本の美学』 19 1992年
33. ジャンルを越えるレトリック／物語・小説のレトリック
(古典文学レトリック事典) 『国文学・解釈と教材の研究』 37-15 1992年
34. 源氏文化の位相(一) 『日本古典文学会々報』 123 1993年
35. 隠された古典—小説にみる物語要素・類型
特集・三島由紀夫—物語るテキスト 『国文学・解釈と教材の研究』 38-5 1993年
36. 源氏文化の位相(二) 『日本古典文学会々報』 124 1993年
37. 〈紙上座談会〉物語というメディア 『新物語研究』 1 1993年
38. アメリカの『源氏物語』研究 『源氏研究』 1 1996年
39. 『源氏物語ハンドブック』の4項目 新書館 1996年
40. 物語研究の課題 Q&A 27 (6項目) 『国文学・解釈と教材の研究』 42-2 1997年
41. 〈座談会〉書物と語り 『新物語研究』 5 1998年
42. 『王朝語辞典』の8項目 東京大学出版会 2003年
43. 日本文学研究の国際化 『日本文学』 49-4 2000年
44. 〈鼎談〉源氏物語の死と涙 『源氏物語の鑑賞と基礎知識』 15 2001年
45. 〈シンポジウム〉21世紀の源氏物語へ 『源氏研究』 6 2001年
46. 『日本思想史辞典』の「源氏物語」の項目 ぺりかん社 2001年
47. 「物語の形態と表現」にむけて 『SITES 討議資料』 2 2003年
48. 『無名草子 注釈と資料』解説
『無名草子 注釈と資料』 『無名草子』 輪読会編、和泉書院 2004年
49. 無名草子における引用関連文献の総合的調査と研究
『科学研究費研究成果報告書』 2004年
50. 〈座談会〉『源氏物語』の十年—ジェンダー・身体・源氏文化 『源氏研究』 10 2005年
51. 〈シンポジウム〉光源氏の罪と栄華 『源氏・賢治・ジュリエット』 2006年
52. 〈座談会〉源氏物語のことばへ 『文学』 7-5 2006年
53. 中古 王朝物語(国語国文学界の展望) 『国語と国文学』 84-5 2007年
54. (再録) 源氏物語の心的遠近法 『源氏物語と紫式部 資料篇』 角川学芸出版 2008年
55. (再録) 物語学にむけて—構造と意味の主観的な変換
『テーマで読む源氏物語』 1、勉誠出版 2008年
56. (再録) 物語の〈語り〉と〈書く〉こと 『テーマで読む源氏物語』 3、勉誠出版 2008年
57. 〈対談〉能で見る源氏物語～飛翔する想像力
『能狂言が見たくなる講座十撰』 檜書房 2008年
58. 〈講演〉『狭衣物語』の絵画資料と歌 『広がる奈良絵本・絵巻』 三弥井書店 2008年
59. 「建築と絵からみた源氏物語」司会の記 『中古文学』 82 2008年
60. 『源氏物語』をめぐる国際交流 “Koreana” 韓国国際交流財団 18-1 2001年
61. 美濃部さんの人柄と学問 『伝承文学研究』 2011年

科学研究費

- 2001年から3年計画「無名草子における引用関連文献の総合的調査と研究」基盤研究（C）
 2007年度研究成果公開促進費「源氏物語の詩学」
 2007年から3年計画「王朝物語の絵と和歌についての研究」基盤研究（C）
 2007年から3年計画「源氏絵の詞書筆者に基づく「源氏文化」の研究」基盤研究（C）

学会発表・講演

- 1982年 8月 インディアナ大学「GENJI」会議 「夕顔の巻の表現—テキスト・構造・語り」
 1995年 8月 インディアナ大学「Sexuality and Edo Culture 1750-1850」のコメントーター
 1997年 3月 コロンビア大学国際会議「CANON FORMATION」「源氏物語、宣長そして近代小説」
 2000年 3月 古代文学研究会「無名草子論」
 2001年 6月 韓国日語日文学会「日本文学における虚構と記憶」
 2001年 8月 2nd International Convention of Asia Scholars ベルリン自由大学「〈女〉の文学としての無名草子」
 2009年 5月 中古文学会シンポジウム「物語の絵と注釈」国士舘大学「近世初期「源氏絵」と詞書筆者について」
 2009年 8月 ICAS（世界アジア学者会議）太田・韓国「『源氏物語』と後宮文化」
 2009年 9月 カレル大学・プラハ・チェコ「『源氏物語』解釈と後宮文化の異文化コンテクスト」
 2009年 9月 CEEJA アルザス日本学研究センター・フランス「近世初期「源氏絵」と詞書筆者」
 2009年 9月 ハイデルベルグ大学「日本と欧米における『源氏物語』」「源氏絵について」
 2009年 11月 ICU パロディシンポジウム、国際基督教大学「歌仙の絵と〈もどき〉」
 2010年 3月 パリ INALCO シンポジウム「『源氏物語』と紫式部」・講演「十二類歌合絵について」
 2011年 8月 EAJS（ヨーロッパ日本学会議）タリン大会「源氏物語の絵と歌—ウィーンMAK本を中心に」
 2011年 9月 サンクトペテルブルグ東洋大学「源氏絵と『源氏物語』の世界」